

# 環境経営レポート2024年度版

2024.05.01～2025.04.30

ver.1.0



発行日2025年5月23日

紙から始めるコミュニケーション

株式会社長門屋商店

## 目次

---

1. 会社概要・対象範囲	1	③ 廃棄物の排出量	12
2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり	2	④ 環境対応商品の売上高	13
3. 環境経営方針	3	6. 環境経営目標（2025年度～2027年度）	14
4. 環境経営組織図	4	7. グリーン購入について	15
5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧	5	8. 環境啓発活動	16～17
①- a 電力使用量	6～8	9. 環境関連法規	18
①- b ガソリン使用量	9	10. 代表者の総括	19
①- c CO2排出量	10		
② 水使用量	11		

## 1. 会社概要・対象範囲

### ■会社概要

- ◆社名 株式会社長門屋商店
- ◆代表者 代表取締役 横溝純一
- ◆創業 1947年
- ◆設立 1953年
- ◆資本金 1,000万円
- ◆従業員数 22名（就業役員を含む）
- ◆事業内容 文具・紙製品の製造卸、小売業、賃貸業
- ◆事業所
  - 本社・小売事業部 東京都港区麻布十番1-5-25  
床面積：173.73㎡
  - 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3  
床面積：301.69㎡
  - 木場オフィス 東京都江東区東陽1-3-17  
床面積：134.13㎡
- ◆環境管理責任者 企画部リーダー 湯本祥子

### ◆事業規模

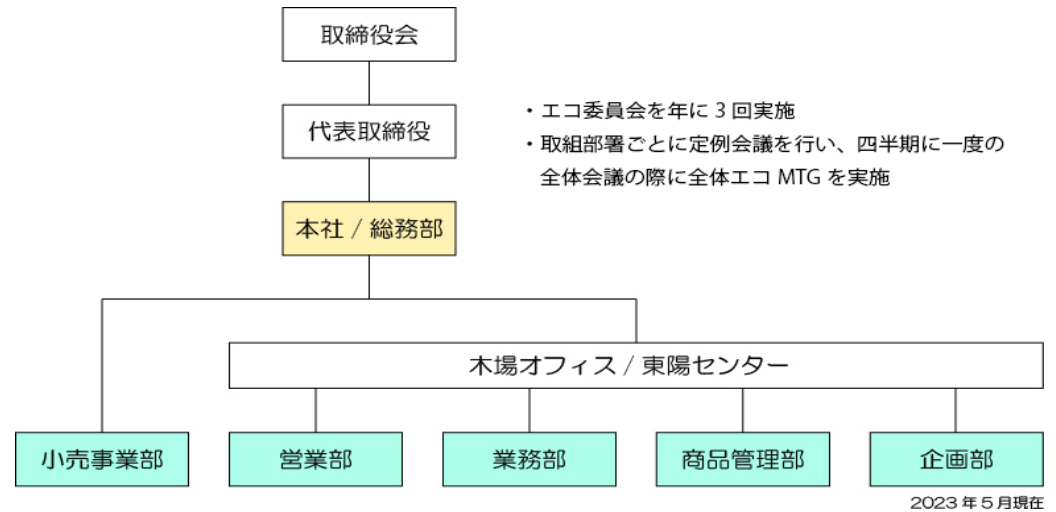
	2022年度	2023年度	2024年度
売上高(万円)	77,600	88,000	95,600

決算期末（7月～翌年6月）売上高

### ■対象範囲

- ①対象とする組織：全組織
- ②対象とする人員：全従業員
- ③対象とする事業活動：全事業活動

### ■組織図



- ・エコ委員会を年に3回実施
- ・取組部署ごとに定例会議を行い、四半期に一度の全体会議の際に全体エコMTGを実施

### ◆主力商品



プリンタ用紙



祝儀・その他文具

## 2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり



### 目標4〔質の高い教育をみんなに〕

- 子どもたちへの教育環境・備品等の支援  
(公財オイスカ こどもの森計画)

→P13, 16



### 目標14〔海の豊かさを守ろう〕

- サンゴ礁保護支援 (WWF 南西諸島プロジェクト)
- 海洋プラスチック問題への取組 (東京ベイ・クリーンアップ大作戦) →P13, 16, 17



### 目標7〔エネルギーをみんなにそしてクリーンに〕

- クリーンエネルギー (太陽光発電) の利用
- 化石燃料に頼ったエネルギー使用を削減する
- 全熱交換機の導入 →P6, 7, 8, 9



### 目標15〔陸の豊かさも守ろう〕

- グリーン購入法適合品の積極的利用
- 希少動物保護支援 (WWF 南西諸島プロジェクト)
- 地球の緑化活動支援 (公財オイスカ こどもの森計画)

→P13, 15, 16, 17



### 目標12〔つくる責任つかう責任〕

- 廃棄物の分別・再利用を含めた削減
- 持続可能な製品の製造・販売に寄与する

→P12, 13



### 目標17〔パートナーシップで目標を達成しよう〕

- 公財オイスカ、WWFジャパンほかとのパートナーシップ

→P16, 17



### 目標13〔気候変動に具体的な対策を〕

- 地球温暖化対策としてCo2削減の取り組み

→P6, 7, 8, 9, 10



### 3. 環境経営方針

---

株式会社長門屋商店は、私たちの未来のため、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現と継続的な環境負荷の低減を推進します。

1. 事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、SDGsを見据えた社会的貢献を目指します。
2. 環境関連の法令・規則を遵守すると共に、ステークホルダーと協力的な関係を確立します。
3. 商品の製造から販売に至るまで『サステナビリティ』を追求し、環境負荷の低減に努め、以下を実施します。
  - a. 環境対応商品を2030年までに総数2,000アイテム以上に増やします。(2024年6月現在1,656アイテム)
  - b. 流通過程においては、エネルギーの無駄使いを徹底的に排除するとともに、廃棄物の削減と排出抑制を図ります。
  - c. 間接支援型環境商品の販売を通じて売上の一部を森林保護や海洋保全団体等の環境保護活動へ役立てます。
  - d. 小売事業においては、レジ袋削減をはじめとした『脱プラスチック』に取り組み、これを推進します。
4. 限りある資源の保全を目的に省エネ・省ゴミ活動を普遍的に継続し、企業価値及び文化的水準の向上へと繋がります。
5. 環境経営における目標・計画・実施状況については、全従業員に周知徹底すると共に、「環境経営レポート」として公表します。

改訂：2022年5月1日

改訂：2018年5月1日

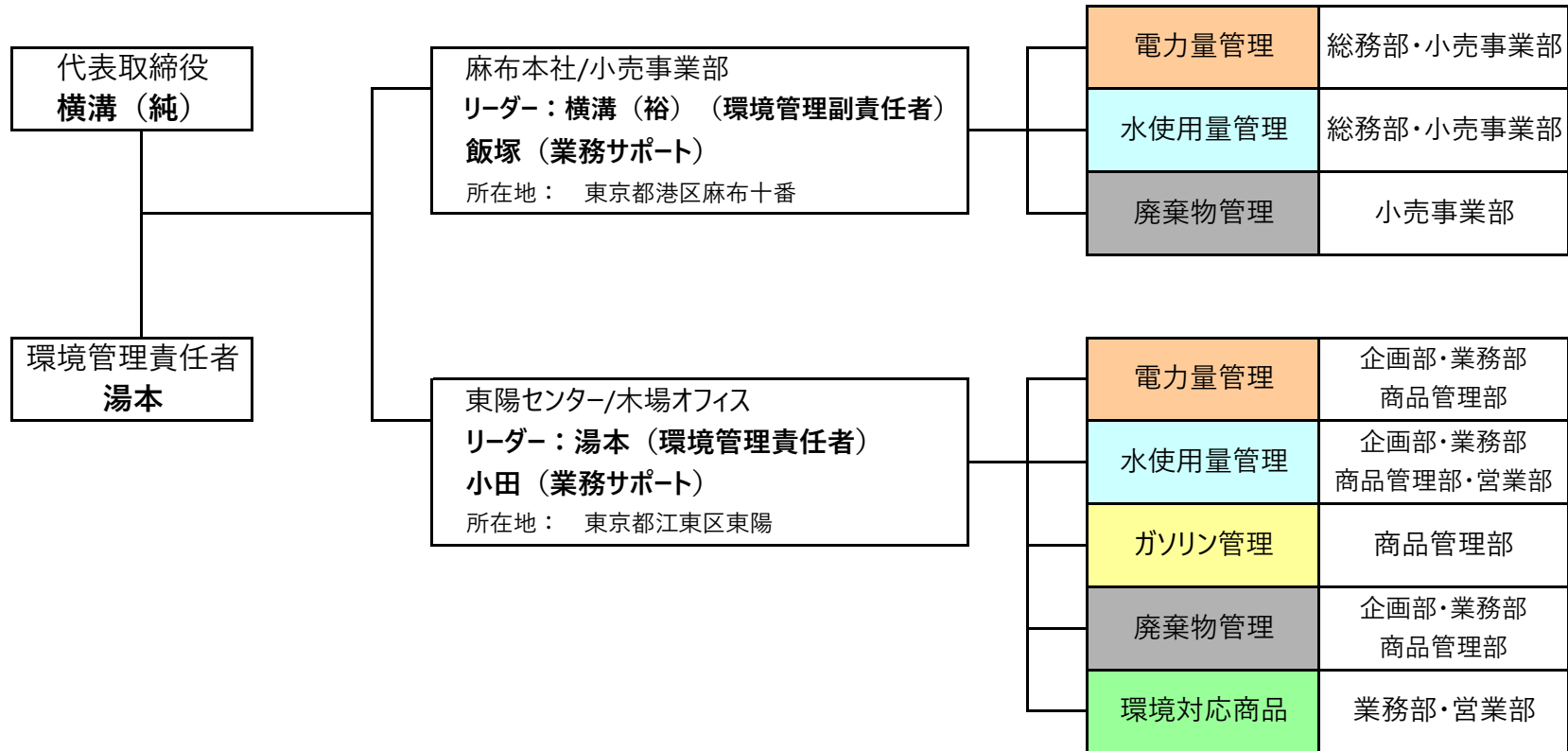
制定：2006年11月01日

株式会社 長門屋商店  
代表取締役 横溝純一

4. 環境経営組織図

〔役割・責任・権限〕

代表取締役	環境経営方針の策定、環境管理責任者の指名、必要な資源を準備、目標値と実行計画の作成・是正指示、課題とチャンスを確認にする
環境管理責任者	環境経営システムの維持、環境経営レポートの作成、各部署の運用状況の把握、定期ミーティングの開催
各部署担当	月次の数値の記録、定期ミーティングにおいて運用状況の報告



## 5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧

実施事項	2023年度実績	2024年度実績	2024年度目標	目標達成率
①-a 電力使用量	50,775kWh	<b>44,386kWh</b> 前年対比 <b>-12.6%</b>	<b>50,550kWh</b> (対2023年度-0.4%)	目標対比 <b>+113.9%</b> ◎
①-b ガソリン使用量	3,716リットル	<b>3,856リットル</b> 前年対比 <b>+3.8%</b>	<b>3,680リットル</b> (対2023年度-0.9%)	目標対比 <b>+95.4%</b> ×
①-c CO2 排出量※	27,227kg-CO2	<b>25,063kg-CO2</b> 前年対比 <b>-7.9%</b>	<b>27,150kg-CO2</b> (対2023年度-0.2%)	目標対比 <b>+108.3%</b> ◎
② 水使用量	172m3	<b>173m3</b> 前年対比 <b>+0.6%</b>	<b>166m3</b> (対2023年度-3.4%)	目標対比 <b>+96.0%</b> ×
③-a 廃棄物(事業系一般廃棄物)の排出量 可燃ごみ (熱回収)	699.1kg	<b>614.0kg</b> 前年対比 <b>-12.2%</b>	<b>576.0kg</b> (対2023年度-17.6%)	目標対比 <b>+93.8%</b> ○
③-b 廃棄物(リサイクル資源)の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	3855.0kg	<b>4478.8kg</b> 前年対比 <b>+16.2%</b>	<b>3825.0kg</b> (対2023年度-0.7%)	目標対比 <b>+85.4%</b> ×
④ 環境対応商品の売上高 ※エコ商品ねっとに掲載の商品が対象	27,626万円	<b>32,310万円</b> 前年対比 <b>+17.0%</b>	<b>28,000万円</b> (対2023年度1.3%)	目標対比 <b>+115.4%</b> ◎

1)CO2排出量使用排出係数について、購入電力は0.000408 (東京電力エナジーパートナー) または0.000494 (楽天モバイル) [単位: t-CO2/kWh]、ガソリンは2.32[単位: kg-CO2/l]を使用

2)◎は設定目標達成 ○は設定目標に及ばずも前年実績より良化 △は前年実績並 ×は目標、前年実績ともクリアできず

3)環境経営目標達成率が90%を下回る場合、また環境関連法規および法令の遵守が認められない場合に、是正・予防処置ならびに報告をするものとする

4)産業廃棄物の排出量はゼロ

## 環境経営目標実施要項①-a 電力使用量（その1/実績一覧）

SDGs 該当項目 ⇒



本社ビル	2022年度	2023年度	2024年度
購入電力量(1)	26,673kWh	24,812kWh	17,238kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	3,439kWh	3,100kWh	3,567kWh
<b>実質電力使用量(1)+(2)</b>	30,112kWh	27,912kWh	<b>20,805kWh</b>
前年比		92.69%	<b>74.54%</b>

東陽センター	2022年度	2023年度	2024年度
購入電力量(1)	14,482kWh	9,748kWh	10,141kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	6,810kWh	5,923kWh	5,193kWh
<b>実質電力使用量(1)+(2)</b>	21,292kWh	15,671kWh	<b>15,334kWh</b>
前年比		73.60%	<b>97.85%</b>

木場オフィス	2022年度	2023年度	2024年度
購入電力量(1)		7,192kWh	8,247kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)			
<b>実質電力使用量(1)+(2)</b>			<b>8,247kWh</b>
前年比			

全社合計	2022年度	2023年度	2024年度
購入電力量(1)	41,155kWh	41,752kWh	35,626kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	10,249kWh	9,023kWh	8,760kWh
<b>実質電力使用量(1)+(2)</b>	51,404kWh	50,775kWh	<b>44,386kWh</b>
前年比		98.78%	<b>87.42%</b>

※太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

**前年対比 -12.58%**

環境経営目標実施要項①-a 電力使用量（その2/取組内容） SDGs 該当項目⇒



↑ LED電球およびLED蛍光灯



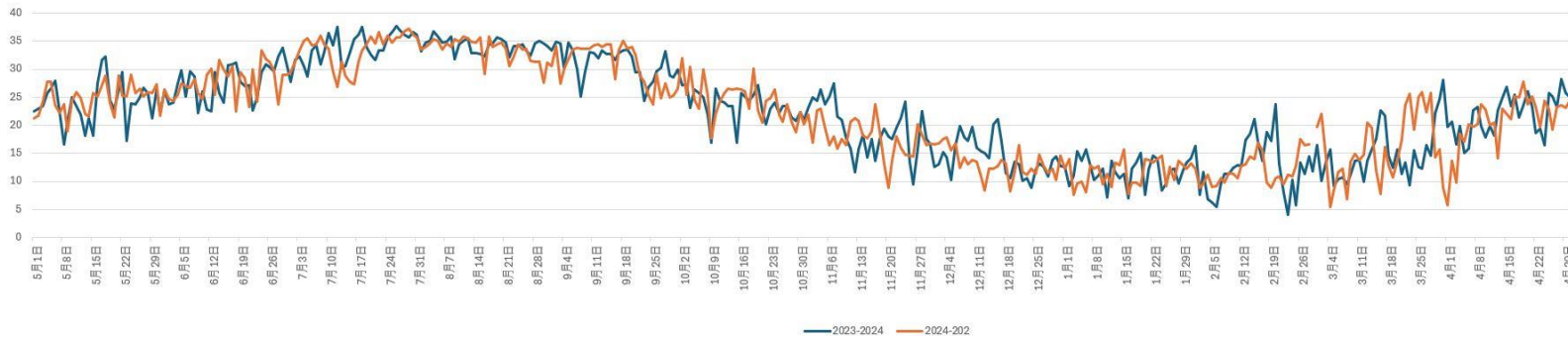
←温度管理へのさまざまな工夫

- 継続取組
- エアコンとサーキュレータ・扇風機の併用等
  - 温度計を使用して室温管理
  - エアコン稼働の目安表示
  - 個別の消灯
  - OAタップによる待機電流OFF

■参考資料（年度別最高気温の推移と真夏日を超える日数の観測）

真夏日(30°C)以上の日数	2023年5月-2024年4月	2024年5月-2025年5月
	90日	83日

年度別最高気温推移



※気象庁の観測データより算出

環境経営目標実施要項①- a 電力使用量（その3 / 評価・次年度へ）

SDGs 該当項目 ⇒



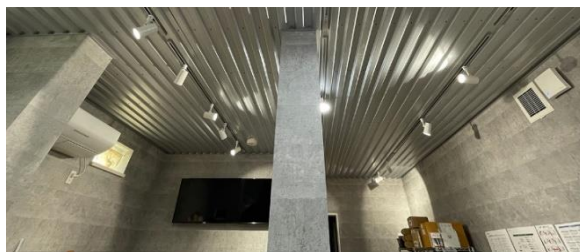
2018/5導入 新型LED照明(全9台)



2018/5完成 新作業室



2018/5導入 新作業室用エアコン



2023年5月導入 掃除機能付きエアコンと全熱換気設備

■今年度の評価

〔本社ビル〕 残業時間の削減と廊下など建物共有部分のLED切替工事の影響で、大きく目標をクリアできました。

〔東陽センター〕 残業の減少とこまめな消灯を徹底し、前年の実績値に近い数字となりましたが、結果は未達成になります。夏に導入しました1階のエアコンの稼働が大きいですが、節電の意識は高く、今後も継続して改善したいと思います。

〔木場オフィス〕 昨年の5月分を今年と同じ使用量に当てはめると7%程度の増加となりました。エアコンの使用以外に影響された月もあり、プリンタの稼働頻度も影響している可能性があります。

■次年度へ

人がいない・稼働していない等気づきがあれば、消灯や電源オフの意識を今一度、再度意識改革改善して参ります。また、適切な使用頻度による健康管理など、働きやすい環境下の中で、電力使用量を減らして行く工夫(窓閉めにて冷暖気を流さない・サーキュレーターを導入・冷却マフラー等)を今後も増やしていきます。

環境経営目標実施要項①-b ガソリン使用量

SDGs 該当項目 ⇒



出発前の車両



低燃費運転の心がけを車両内に表示



発送前商品

⇒ 運送会社の発送を積極的に活用

	2022年度	2023年度	2024年度
ガソリン使用量	3,741L	3,716L	3,856L
前年比		99.34%	103.76%

**前年対比 +3.8%**

【参考】全車の年間走行距離と一台あたりの燃費

	2022年度	2023年度	2024年度
全車合計走行距離	53733km	49148km	50949km
前年比		91.47%	103.66%
一台あたり燃費	11.31km/L	14.36km/L	13.23km/L
前年比		126.97%	92.13%

■ 継続取組

- 車内に「低燃費運転の心がけ」を貼り意識向上
  - ① アクセルワーク51%以下 ② アイドリングストップ
  - ③ エアコンは控え目 ④ タイヤの空気圧チェック
- 工場や仕入先などからの直送を増やし積載減

■ 評価・次年度へ

ガソリン増加の原因は、前年より走行距離の増加による給油の増加、また、社用車の入れ替えの為、昨年の車両と比較すると、既に四半期で1500km以上走行している為、増加しています。  
来季の目標は2月以降の四半期が基準になると思いますが、猛暑の予想もされている為、体調面を気遣いつつ低燃費運転を実施して参ります。

環境経営目標実施要項①- c CO2排出量

SDGs 該当項目 ⇒



CO2排出係数		2024年度使用数値
購入電力	(本社)東京電力エナジーパートナー	0.000408 t-CO2/kWh
	(東陽センター/木場オフィス) 楽天エナジー	0.000494 t-CO2/kWh
ガソリン	EA21ガイドライン	2.32 kg-CO2/l

※2024年度の購入電力の係数は2025年3月18日環境省・経済産業省公表値の実排出係数に拠ります。

オフセット計算	2024年度
本社ビル 総発電量	8,997kWh
東陽センター 総発電量	11,225kWh
発電量合計	20,222kWh

購入電力での排出量

⇒ 9,216kg-CO2 相当

※計測端末の値を引用、購入分より差引



**太陽光発電によるオフセット後の排出量 15,847kg-CO2**

※なお、昨年のオフセット後の排出量は 17,567kg-CO2でした。  
(前年比約8.8%減)

全社合計		2022年度	2023年度	2024年度
本社ビル	排出CO2	12,190kg-CO2	11,339kg-CO2	7,033kg-CO2
購入電力	購入量	26,673kWh	24,812kWh	17,238kWh
東陽センター	排出CO2	7,024kg-CO2	4,562kg-CO2	5,010kg-CO2
購入電力	購入量	14,482kWh	9,748kWh	10,141kWh
木場オフィス	排出CO2	/	3,287kg-CO2	4,074kg-CO2
購入電力	購入量	/	7,192kWh	8,247kWh
全社ガソリン	排出CO2	8,685kg-CO2	8,039kg-CO2	8,946kg-CO2
使用量	使用量	3,741L	3,716L	3,856L
<b>排出CO2総量</b>		27,899kg-CO2	27,227kg-CO2	25,063kg-CO2
前年比		/	97.59%	92.05%

【参考】

	2022年度	2023年度	2024年度
排出CO2原単位 (売上高百万円当り)	35.95 kg-CO2/万円	30.94 kg-CO2/万円	26.22 kg-CO2/万円
前年比	/	86.06%	84.73%

**前年対比 -7.95%**

環境経営目標実施要項② 水使用量



本社ビル	2022年度	2023年度	2024年度
上下水道使用量	50m3	44m3	46m3
前年比		88.00%	104.55%

東陽センター	2022年度	2023年度	2024年度
上下水道使用量	101m3	74m3	65m3
前年比		73.27%	87.84%

木場オフィス	2022年度	2023年度	2024年度
上下水道使用量		54m3	62m3
前年比			114.81%

全社合計	2022年度	2023年度	2024年度
上下水道使用量	151m3	172m3	173m3
前年比		113.91%	100.58%



■継続取組

- 節水を促すPOPを作成し、目に入る場所へ掲示しています。
- 節水コマを取り付け流量を絞り、ムダを省くよう取り組んでいます。

■評価・次年度へ

〔本社ビル〕 スタッフが増え水の使用量が微増したことが考えられます。健康管理に努めつつ節水意識も共有し、取り組んで参ります。

〔東陽センター〕 最低限の手洗い・うがい以外での水道の使用がなく、社用車は外部で行っている為散水などはありませんでした。節水装置等が不十分な箇所もまだありますので、機器を交換するなどの対策を検討します。

〔木場オフィス〕 昨年は5月分の使用がないので年計では大きく増えたようにみえますが、止水栓を調整した効果がみられました。今後も物理的に節水した中で、排水量を抑えて行きます。

前年対比 **+0.6%**

環境経営目標実施要項③ 廃棄物の排出量

SDGs 該当項目 ⇒



↑ 合い紙の活用



↑ ダンボール再利用



↑ 計量用のスケール



↑ 3種の分別ゴミ箱を用意しています。

③-a 可燃ごみ（熱回収）

熱回収	2022年度	2023年度	2024年度
本社ビル	34.7kg	28.2kg	45.1kg
東陽センター	446.5kg	670.9kg	569.0kg
合計	481.2kg	699.1kg	614.0kg
前年比		145.28%	87.83%

前年対比 **-12.2%**

③-b プラ・古紙・ダンボール（再生）

再生	2022年度	2023年度	2024年度
本社ビル	552.4kg	557.2kg	636.1kg
東陽センター	3226.4kg	3297.8kg	3842.7kg
合計	3778.8kg	3855.0kg	4478.8kg
前年比		102.02%	116.18%

前年対比 **+16.2%**

※木場オフィスの廃棄物は東陽センターと合算しています

■継続取組

- 合い紙の社内ドキュメントへ活用 ● ダンボールの再利用
- 古紙やプラの分類回収 ● ペーパーレスの促進
- テープの巻き芯を収集
- ペットボトルとキャップの分別収集

■評価・次年度へ

〔本社ビル〕バックヤードレイアウト変更やカタログの差し替え、ミスプリントなどの原因により廃棄物が増加。印刷するものとPDF化できるものを選別し、次年度へつなげていきます。

〔東陽センター〕マイ箸、マイお手拭き使用の意識が見受けられ、可燃ごみの減少に繋がりました。また、分別の徹底がきちんとされたのも一つの要因です。分別によりミックスペーパーと段ボールは増加しましたが、プラごみの減少と再生利用可能なミックスペーパーの増加など、環境意識への変化のみられる一年となりました。次年度は段ボールの再利用を増やし、廃棄の排出を減らす利用方法を考え、行動して参ります。

環境経営目標実施要項④ 環境対応商品の売上高

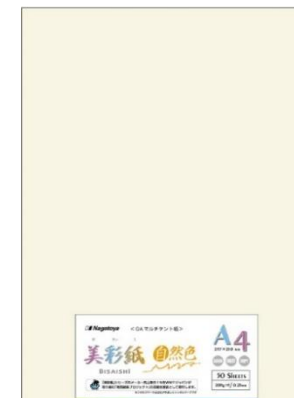
SDGs 該当項目 ⇒



売上の一部を(公財)オイスカへ寄付している  
「カラーペーパー」シリーズ



グリーン購入法適合用紙  
「ホワイトペーパー-R」シリーズ



売上の一部をWWF日本の南西諸島  
保全へ寄付している「美彩紙」シリーズ

■対象商品 (下記いずれが含まれているもの)

- ①売上の一部を環境保全団体に寄付している。
- ②原料に廃材や再生材を使用している。
- ③非木材原料を使用している。

■評価・次年度へ

グリーン購入法適合用紙の商材(美彩紙シリーズ)が増え、売上高の増加に大きく繋がりました。次年度はより商品の魅力を拡販しながら、欠品のないよう迅速な対応を促進して参ります。

	2022年度	2023年度	2024年度
環境対応商品	23,612万円	27,626万円	32,310万円
前年比	105.44%	117.00%	116.96%

当社基準による自社ブランドでの売上高です。

**前年対比 16.96%**

## 6. 環境経営目標（2025年度～2027年度）

実施事項	2024年度実績	2025年度目標	3カ年での中期目標
①- a 電力使用量	44,386kWh	<b>44,208kWh</b> 前年対比 <b>-0.4%</b>	2026年度 <b>43,986kWh</b> (対2024年度-0.9%) 2027年度 <b>43,853kWh</b> (対2024年度-1.2%)
①- b ガソリン使用量	3,856リットル	<b>3,848リットル</b> 前年対比 <b>-0.2%</b>	2026年度 <b>3,817リットル</b> (対2024年度-1%) 2027年度 <b>3,799リットル</b> (対2024年度-1.4%)
①- c CO2 排出量 (※)	25,063kg-CO2	<b>24,843kg-CO2</b> 前年対比 <b>-0.9%</b>	2026年度 <b>24,715kg-CO2</b> (対2024年度-1.3%) 2027年度 <b>24,643kg-CO2</b> (対2024年度-1.6%)
② 水使用量	173m3	<b>172m3</b> 前年対比 <b>-0.6%</b>	2026年度 <b>171m3</b> (対2024年度-1.1%) 2027年度 <b>170m3</b> (対2024年度-1.7%)
③- a 廃棄物(事業系一般廃棄物)の排出量 可燃ごみ (熱回収)	614.0kg	<b>600.0kg</b> 前年対比 <b>-2.3%</b>	2026年度 <b>595.0kg</b> (対2024年度-3%) 2027年度 <b>591.0kg</b> (対2024年度-3.7%)
③- b 廃棄物(リサイクル資源)の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	4478.8kg	<b>4333.0kg</b> 前年対比 <b>-3.3%</b>	2026年度 <b>4305.0kg</b> (対2024年度-3.8%) 2027年度 <b>4280.0kg</b> (対2024年度-4.4%)
④ 環境対応商品売上高	32,310万円	<b>32,730万円</b> 前年対比 <b>+1.3%</b>	2026年度 <b>32,900万円</b> (対2024年度+1.8%) 2027年度 <b>33,100万円</b> (対2024年度+2.4%)
⑤ 従業員の環境意識向上	緑化推進・クールビズ・健康増進		

※CO2排出量使用排出係数について、購入電力は0.000408（東京電力エナジーパートナー）または0.000494（楽天エナジー）〔単位：t-CO2/kWh〕、ガソリンは2.32〔単位：kg-CO2/l〕を使用

※是正措置により「水使用量」ならびに「a 廃棄物の排出量 可燃ごみ(熱回収)」の2024年度の目標は2023年度の実績を元に設定していません。

## 7. グリーン購入について

### ♣グリーン購入につきまして

文具販売業を営んでいるため、汚れによる販売不可商品やサンプル品なども日常積極的に使用しており、文具通販等からの購入がなく事務用品のグリーン購入は数値集計が難しく行なっておりませんが、以下の通り意識的にグリーン購入を実施しております。

■OA機器類や電化製品などの購入の際には、右記の写真のように「エコマーク」や「Energy Star」が付いたものなどを積極購入

■印刷封筒類は古紙配合のものを使用

■コピー用紙はシーンによって、再生PPCを使用

■モノクロレーザープリンタには、再生トナー、再生ドラムを使用



8. 環境啓発活動 (1)

SDGs 該当項目 ⇒



－WWF「南西諸島プロジェクト」支援－

WWFジャパンが進める「南西諸島プロジェクト」（南西諸島エコリージョン）は、鹿児島県・沖縄県の島部である南西諸島の生態系保全を目的とした取り組みです。以前取り組んでいたWWF「しらほサンゴ村」支援に引き続き、「OAマルチケント紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%を活動支援金として寄付しております。

2024年度実績：420,977円



特別天然記念物「アマミノクロウサギ」と沖縄近海の「アオサンゴ」をモチーフとした、弊社のオリジナルシンボルマーク・通称NANSEIちゃんです。「OAマルチケント紙 美彩紙」シリーズの商品パッケージに表記しております。



WWF® and ©1986 Panda Symbol are owned by WWF. All rights reserved.

感謝状

株式会社 長門屋商店 殿

寄付額 ¥420,977-

貴社は当財団の自然保護活動に対して深いご理解を示され当財団の南西諸島プロジェクトを支援するために多額のご寄付をされましたここに貴社の重ねてのご厚志に対し衷心より深甚の謝意を表します

2025年4月25日

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン  
会長 末吉 竹二郎

－オイスカ「子供の森」計画支援－

公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画は、こどもたち自身が学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にしたい気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうという森づくり運動です。寄付金の一部は学用品や学校施設への教育支援としても使われます。弊社カラーペーパーシリーズの売上の一部をこの計画に寄付しております。

2024年度実績：393,192円



環境啓発活動 (2)

SDGs 該当項目 ⇒



－ ワクチンキャップ活動 －

ワクチンキャップ 受領書

日付 令和7年2月13日

株式会社 長門屋商店  
キャップ回収担当様

〒113-0066  
東京都中央区新富1丁目1番1号  
TEL 03-3599-1080  
FAX 03-3599-1082  
http://petbottle.jp/~03.jp/

年月日	回収数量	備考	換算ポイント	状況	換算ポイント
2025/2/6	10.2kg	キャップ約 4,386個	4,386個	です。	2.6本分
計	10.2kg	キャップ約 4,386個	4,386個	です。	2.6本分
総計	10.2kg	キャップ約 4,386個	4,386個	です。	2.6本分

この領書は回収されたペットボトルのキャップの受領書です。回収ポイントの付与はNPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会に送付を要し、お申し込みが必要です。

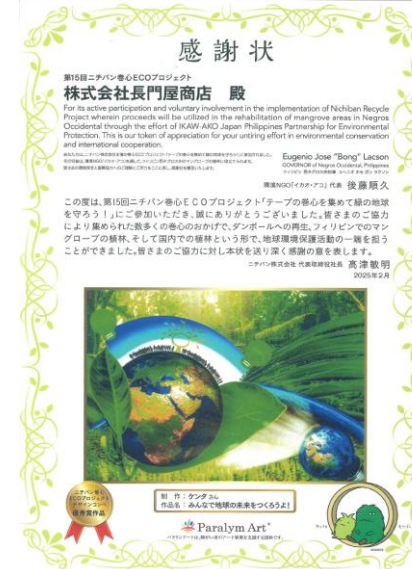
※1 本領書は有効期限は1年間です  
※2 本領書の有効期限は、本領書発行日より起算となります  
※3 本領書の有効期限は、本領書発行日より起算となります

飲み終わったペットボトルのキャップを全社で回収し、東京ペットボトルリサイクル株式会社を通じてワクチンキャップ運動に参加しています。

2024年度実績：キャップ重量10.2kg(4,386個)  
ポリオワクチン換算2.6本分相当



－ 巻き芯ECOプロジェクト －



ニチバン株式会社が取り組む「巻き芯ECOプロジェクト」に参加しています。  
使い終わったテープの巻き芯が集められ、ダンボールへの再生や再生材の換金で国内外の植樹活動に役立てられます。  
毎年10～20kg相当が回収できるため、環境保護活動の一端を担えると同時に廃棄物の削減に繋がっています。

－ 東京ベイ・クリーンアップ大作戦 －

「東京港を泳げる海に！ハダシで歩ける砂浜に！」をスローガンに毎年3回、地球環境の保全と泳げる海をめざして、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団（Kissポート財団）が主催する東京都お台場海浜公園で行う清掃活動に、レジ袋廃止に伴う手提げ紙袋の売上を協賛金の形で支援しています。

2024年度実績：26,775円

## 9. 環境関連法規

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 環境への負荷の低減の取組</li> <li>■ 自動車公害対策（アイドリングストップ）</li> </ul>	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理</li> </ul>	○	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 水銀を含む廃棄物に関する対応</li> </ul>	○	遵守
江東区清掃リサイクル条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業系一般廃棄物に関して</li> </ul>	○	遵守
港区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業者の責務・減量義務等</li> </ul>	○	遵守
江東区環境基本条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第7条（事業者の責務）ほか</li> </ul>	○	遵守
容器包装リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握</li> <li>■ 商品包装への識別マーク表示</li> <li>■ 上記の包装資材の再商品化義務</li> </ul>	○	遵守
家庭用品品質表示法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 障子紙が該当</li> </ul>	○	遵守
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日常使用の範囲</li> </ul>	○	遵守
労働安全衛生規則	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 電動フォークリフトの法定検査および自主検査</li> </ul>	○	遵守
道路運送車両法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自賠償・納税・走行ルール</li> </ul>	○	遵守
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リース会社・販売会社に委託</li> </ul>	○	遵守
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払</li> </ul>	○	遵守
小型家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払</li> </ul>	○	遵守
資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 使用済みの事業系パソコンの排出</li> </ul>	○	遵守
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設置のパッケージエアコン等の簡易点検</li> </ul>	○	遵守

2025年5月現在

### 環境関連法規への違反、訴訟などの有無

別紙「EA記録004\_環境関連法規取り纏め表」を参照

環境関連法規に関する違反はありません。また訴訟についても事例がありません。

関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

## 10. 代表者の総括

### ■代表者による総括と改善指示

#### 【当該年度の総括】

2024年度は前年開設と同時にEA21の対象範囲に加えた木場オフィスの稼働が本格化し、また事業計画の上では中期5か年計画の最終年度にあたる事業年度という事もあって、当社においては全般的に大忙な1年となりました。人事異動や退職・新規採用などの人事面の影響によりEA21における環境経営組織についても期中で変更が生じたり、前年度の総括でもテーマとしていた啓発活動にも注力の必要性が高まったように思います。

そのような状況にあっても今年度は「エコ委員会」と呼んでいる若手社員を中心とした組織をつくり、3回の開催を実施する運びとなりました。社内啓発はもちろんのこと、普段なかなか話し合うことのできない環境経営における現行の課題や問題点などについて積極的に意見交換を行い共有し合う事ができたことは大きな成果だと感じています。

環境経営方針については、普遍的な指針として捉えており次年度も変更することなく一つの会社風土として根付かせて参ります。

実施体制については、次年度に向け新たな環境管理責任者を任命しました。また副責任者として入社1～2年の若手社員を抜擢いたしました。更に各管理担当者をシャッフルすることで組織の活性化を図って参ります。

今年度の環境経営目標及び環境経営計画についてですが、車両の使用頻度が増え「ガソリン使用量」は微増したものの、「電力使用量」の抑制によって「CO2排出量」の削減目標を達成しております。また3期連続で「環境対応商品の売上高」の目標を達成したことについては、期中の価格改定など別の要因は見当たりませんので、正に純増の達成と評価できる結果となりました。グリーン購入法のガイドライン改定により新たにG法適合となった製品が増加し、環境経営方針に掲げる対象品数2,000アイテムの目標に対し現段階で、1,694アイテムとなっています。「水使用量」増加による目標未達は、従業員の増加が要因と考えております。最後に前年度からの課題となっている「廃棄物の排出量」削減については、一定の得意先様への納品方法を折りたたみコンテナ使用に変更したことの影響だと報告を受けております。入出荷に関わる梱包資材（段ボール等の再生廃棄物）の増加を抑制することが継続的な課題でもありますので、見直しを検討を指示いたしました。

#### 【次年度の見直しや改善指示】

環境経営方針は現行を維持いたします。実施体制は新たな環境管理責任者を任命しました。また副責任者として入社1～2年の若手社員を抜擢いたしました。更に各担当者をシャッフルすることで意識の活性化を図って参ります。新設の「エコ委員会」は継続的な活動をもとめていきます。環境経営目標及び環境経営計画については変更なく継続して参ります。

目標未達となった「ガソリン使用量」と「廃棄物（リサイクル資源）の排出量」の項目については、担当者へ原因の把握を行うことを求め、削減目標を見直すよう指示いたしました。

2025年5月19日  
代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社 長門屋商店

<https://www.nagatoya.com>